

## 【高等学校の部 講評】

喜多 祥泰 審査委員（沖縄県立芸術大学美術工芸学部 准教授）

高校生の部には多くの植物愛があふれる作品応募があり、出会った一枚一枚は、誰もが心を温かくし原風景を思い起こすポスターになっていました。今回はユニークでとても目を引く作品や、自分ならではの自然観察眼の現れた作品を高く評価したような印象を持ちました。

さすが高校生の部で、ポスターカラーを使用したメッセージ性の強い色彩表現のものから、透明水彩のパステル調のやわらかな世界観のものまで、様々な素材を巧みに扱い描かれていました。入選作品は、ポスターということもあり背景が平滑に扱われている応募作品が多い中でも、構図や描写を工夫して、結果として充実した画面構成を行っている印象をもった作品が多かったです。反対に、境界線のような、線を印象つける補足的な描写にとどめた作品は少なかったです。高校生の部の特徴として、画面全体で緑を強調できていたと思います。

沖縄ならではの密度の濃い緑の表現となっているように感じますが、色面や質感の違いを用いて、作者の中での自然に対する観察・感性をより投影できると、おのずと作品としての可能性は広がるように思います。